

建設・生産システム工学専攻			高齢者環境学				
学年	専攻科1年	担当教員名	佐藤 彰治				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	専門展開・選択	学修単位1
授業の目標と概要		高齢化が進む社会の中で、それに対応した住宅や公共建築物を計画、設計する上で基本となる「建築環境」のあり方や手法についての専門知識を蓄積し、理解を深めることを目標とする。授業は文献調査と口頭発表・質疑によるゼミ形式とする。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		本科(建築学科)の「建築計画」「建築環境工学」の基本知識を要する。					
到達目標		1. 若年者と高齢者の感覚の相違が理解できる。 2. 高齢者利用に関わる基本知識を理解できる。 3. その計画・設計への応用手法を理解できる。					
成績評価方法		評価の内訳をレポート(40%) + 口頭発表(20%) + 試験(40%)とし、100点満点中60点以上を合格とする。同点数を最終評価とする。					
テキスト・参考書		教科書 - なし 参考書 - 高齢者のための建築環境(日本建築学会編) 高齢者・障害者を考えた建築設計(井上書院) 日本建築学会大会梗概集					
メッセージ		国内での関連研究の内容や進展などの情報・知識を蓄積して欲しい。 高齢社会のなかで、建築の面から自分で何ができるかを考えてもらいたい。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
1. ガイダンスと総論(1回) 2. 熱と空気環境(3回) 3. 音の環境(3回)			1. 建築と高齢化社会の基本的な現状を把握できること 2. 高齢者に対応した熱・空気環境のあり方、手法が深く理解できること 3. 高齢者に対応した音環境のあり方、手法が深く理解できること				
後期中間試験			実施しない				
4. 光の環境(3回) 5. ユニバーサルデザイン(3回) 6. 今後の高齢者対応のあり方(1回) 7. 試験(1回)			4. 高齢者に対応した光環境のあり方、手法が深く理解できる。 5. 高齢者に対応したユニバーサルデザインの現状が理解できる。 6. 建築における高齢者対応の方向性について理解できること				
後期期末試験			実施する				